

平成29年度 第1回東広島市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年4月27日(木)  
開会10時00分 閉会11時20分

2 会 場 東広島市役所本館3階303会議室

3 出席者 (構成員)

東広島市長 藏田 義雄

東広島市教育委員会

教育長 津森 毅

委 員 渡部 和彦 (教育長職務代理者)

委 員 坂越 正樹

委 員 織田 壽子

委 員 長嶋 香穂里

委 員 京極 秀樹

(説明のために出席した者)

副市長 榎原 晃二

産業部長 前藤 英文

生涯学習部長 下宮 茂

商業観光課長 山根 達也

スポーツ振興課長 丸山 一徳

(事務局関係)

総務部長 前延 国治

総務課 参事 兼 行政経営係長 間所 克成

行政経営係 主査 蔭西 亮太

4 議 事 (1) 東広島市教育大綱に基づく取組み内容 ～基本方針4-3 スポーツの振興  
「スポーツによる交流推進と観光振興との連携について」

5 内 容

○開 会

○藏田市長あいさつ

## ○議 事

### (1) 東広島市教育大綱に基づく取組み内容について

#### <藏田市長>

それでは早速ではございますが、会議次第にありますとおり、2の「議事」に入ります。  
スポーツによる交流推進と観光振興との連携についてでございます。

本日は、東広島市教育大綱に定めております「基本指針4-3 生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成」から「スポーツ」と「観光」をキーワードとしてテーマを絞り、「スポーツによる交流推進と観光振興との連携」について意見交換を行い、方向性を共有させていただきたいと思っております。

はじめに、議事につきまして、事務局から説明をお願いします。

#### <事務局>

それでは、議事につきまして、ご説明いたします。

本市では市長が掲げております「人々から選ばれる『人口20万都市』への挑戦」のもと、様々な取り組みを行っておりますが、今年度新たに「体験・滞在型地域資源の活用促進」を政策推進の重点項目の1つに据えることとなりました。

これは、周辺地域の活性化や観光振興、健康増進を図ることを目的としておりますが、今年度から観光総合戦略の策定に取り組むこととしており、観光分野での具体的な施策については今後の検討課題となっているところでございます。

また、スポーツの分野につきまして、昨年度、教育委員会において策定されました「東広島市スポーツ推進計画」では、施策の方向性の1つに「地域でスポーツ」という地域の活性化に繋がる項目がございます。中でも、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運の醸成や、観光分野との連携から、スポーツツーリズムが取り上げられております。

今後取り組んでまいります「体験・滞在型地域資源の活用促進」には、「観光」と「スポーツ」両方の視点が欠かせないことから、「スポーツによる交流推進と観光振興との連携」を、本日の議題とさせていただきます。

説明は、以上でございます。

#### <藏田市長>

ありがとうございました。

早速ではございますが、はじめに産業部長から、本市の観光振興施策等について、説明をお願いします。

#### (産業部長説明【資料1】)

#### <藏田市長>

ありがとうございました。

続いて、教育委員会側からは、生涯学習部長に、スポーツ推進計画による新たな展開についての説明をお願いします。

(生涯学習部長説明【資料2】)

<藏田市長>

ありがとうございました。

東広島市への総観光客数が年々増加傾向にある中で、「日本酒のまち」としての認知度も徐々に上がってきていると思います。

また、スポーツ推進計画に新たに「地域でスポーツ」の構想が盛り込まれており、主要施策としての「スポーツツーリズムの促進」が期待されているところでございます。

まずは、現状の取組みについての説明をしていただいた中で、観光やスポーツと一緒にする、または観光と体力測定を一緒にするといったいろいろな発想をしていただいた上で、東広島市へ来られたお客さんが楽しんでいただけるようなことを、少し遊び心を加えながら思い浮かべてご意見を伺いたいと思います。教育長、いかがでしょうか。

<津森教育長>

スポーツツーリズムの促進は市にとって望ましいことですが、スポーツ推進計画にあるスポーツを通じた交流人口の拡大には、まず、市民のスポーツの活性化が大事だと考えておりまして、土日のスポーツイベントに参加していると、スポーツ少年団の活動など西日本の各地からおいでになっています。バレーボール、ソフトボール、空手、陸上・競歩などがありますが、会場に来られても、競技が終了するとすぐに帰られると思っておりまして、こういった方々は観光客の数には入らないのかなと、そういった交流人口など、現状データの把握をしたいと思っております。

産業部長へ伺いたいのですが、観光客の数はどのように数えるのでしょうか。

<前藤産業部長>

起点を決めて、例えば、運動公園の体育館のお客さんも観光客の数字に入れております。本市の中の施設利用者で一番の集客施設は運動公園の体育館になります。各施設の数を聞きながら、人数の積み上げをしておりますが、スポーツイベントで来られるお客さんも、本当は観光客として含めたいところですが、現状そういったシステムとなっておりますので、もう少し統計上の人数を増やすためにはそういったシステムは必要なのかなと思っております。

<津森教育長>

2年ぐらい前に、社会科の授業で県内各地の観光客の比較を行ったことがありまして、市町ごとにランキングしたところ、東広島市は真ん中より少し下じゃなかったかなと思うのですが、もっとPRが必要だと考えたものですから。わかりました。ありがとうございました。

<藏田市長>

ありがとうございました。大会終了後、お客さんがどこに行かれるのか、観光していただけるシステムも必要ですし、お酒のPRもしなくてはいけないし、もっとぶらぶら歩いていただきたいということもありますね。もう一つ私たちが思っているのが、例えば、渡

部先生たちに市民が元気になる体操を考案していただいたり、いろいろなことで貢献していただいているのですが、そういったものを街中でみんな、朝、よく中国とかで太極拳をしているような感じでやっていただくとか、酒蔵へ行ったら、みんな元気になるようなことにそれぞれ取り組んでいるとか、というのも一つのアイデアかなと思っているのですが、渡部先生、その辺りも織り交ぜて何か面白いことがあったら、ご意見をお願いします。

#### <渡部委員>

スポーツと観光が直接結びつく例もたくさんあるのですが、本市の場合に観光とどのように結びつけるかは、改めて考える必要があるのではないかと思います。これは、自然発生的に何かスポーツをするから人が集まるということではなくて、外から、県外或いは国外から如何にしてこちらに来ていただいて、そして、大会が終わったらすぐに帰るのではなくて、2日、3日と滞在していただけるような企画ができるかということだと思うんですね。そのためには、一つの仕掛けが必要だと思うのですが、一つの場合、例えば、今、話に出てきている体育館ですね。体育館の利用頻度が高いと。こういうことは一つの大きな器があるので、そこでいろいろなイベントができて、たくさんの方が集まる。逆に言えば、他にないからそこに集中するということもあるんですけど、翻って、スポーツというものを考えた時に、体育館の中だけではなく、アウトドアスポーツもあって、先程の説明にもありましたが、観光に来た時に合わせて楽しみたいスポーツの第1位にウォーキングとかハイキングがありますね。自然の中でスポーツができて、その後、1日2泊まっていたらということを見ると、本市は大変自然に恵まれたところでありますので、今すぐというわけにはいかないのですが、コースを工夫して、自然の中で、ウォーキングなりハイキング、或いはトレッキング、フットパスとかですね。こういったスポーツができる環境にある。そういう意味での本市の宝というものをじっくりよく考えて磨き上げていくことが大事ではないかと思うんです。

自然の他にも観光の目玉としましては、駅のすぐ裏に国分寺がありますが、国分寺と聞くと全国どこにでもあるので、数ある中の1つとして、あまり注目されないのですが、せっかく整備した東広島市の国分寺は、全国の国分寺の中でも「ここが違う」といったPRのポイントは、ここで発見された遺物ですよね。木簡や陶器に書かれた文字などから、いつ建てられたかというはっきりとした年代が確定されたと、それがこの国分寺にしかないことですね。そういうことを、多くの市民が知らない、ほかの方も知らない。宝を磨くとはそういったことですね。文化遺産を理解した上で、市内のウォーキングコース、ハイキングコースとして、例えば、鏡山だとか龍王山とかを歩いてもらうのが大事だと思います。

もう一つ、私が思っておりますのが、滞在型というのは、初めから滞在型と考える作戦なんです。それは、子供中心ではなく、高齢者です。特に中高齢者の方で、今、大変問題となっているのが、体の方ではなく、メンタルの方ですね。そういうところで、1週間なり10日なり、ゆっくり滞在して自然と触れ合う、こういう方への一つのケア、専門の福祉関係の方の、知恵や手を借りる環境を作っていくこともこれから大事なのではないかと。

ですから、1年2年ではなく、5年10年のスパンで考えて、きちっとしたデータを取って、ここをこういう風にすればいいんだということを発信することができる状況にあると思います。そういうところを例えば、福富、豊栄、安芸津など他にもいろいろなところがありますので、モデル地区を作ると、国内だけではなく、インバウンドで外国からも呼び込めることができるのではないかと考えております。ですから、自然、地域の方、現在あるスポーツ施設をもう一度見直しして、磨き上げるということだと思います。

最後にですね、市民の理解が大変重要で、例えば、ゴルフ大会や野球大会があるときに選手と役員だけでやっている状況で、観客を考えていない場合もありますが、少なくとも、1,000人、2,000人くらいが入る環境でないと全然面白くないですね。そういう発想で市民の皆さんを巻き込んで、我が市ではこういう優秀な選手がいるんだとか有名な選手を見たよとか、そういうことが話題となって、初めて観光に結びつくスポーツ文化が生まれるんじゃないかな、そういう風に思います。

#### <藏田市長>

ありがとうございます。スポーツをやっている人は楽しんでいるのですが、見ている人も楽しむことは少ないので、そういったところも大きな魅力になっていければいいと思います。

もう1点、地域の宝ということをおっしゃっていただきましたが、私たちの普通の生活の中では何ともないところですが、外国の人から見たらすごく魅力的ということもあります。そんなところを子供たちにも、或いは地域の生活の中にも、普段の四季折々の中でもみていただくのがいいのではないかと。特に、子供たちの普通の遊び、普通の体験、その辺り、織田委員もよくご存じではないかと思うのですが、如何でしょうか。

#### <織田委員>

地域のいろいろな行事の中で、スポーツに関わることに子供が参加するというのは、これからは取り組んでいかれることだと思いますが、子供が参加すれば、親も参加するということでだんだん規模が大きくなり、本市が狙っているところに行くのではないかなと思います。

ただ、子供たちは今頃、大変忙しいものですから、なかなか地域の行事に参加できなかったり、スポーツをやっている子もおりますけど、そういったところでいろいろと課題があるかと思います。県外もということになると、スポーツ教室みたいなものはですね、サッカーとか野球とかは有名な方に来ていただいて指導してもらい、対象を市内だけでなく、県外にまでPRしていく方法もあるかなと考えております。

子供と高齢者、先程、渡部先生がおっしゃいましたけども、高齢者が健康寿命を延ばすためにということで、いろいろなイベントをしっかりといただくような取り組みがあると結構、高齢者が多くなっていますので、参加する方も多いのではないかなと考えております。

ただ、この前、桜がきれいに咲いておりました鏡山公園に観光に来た人が、他を観光するというのは限られた時間ですので、やはり出店のようなものですね、酒まつりのようなもので、酒都東広島市をPRするような出店でもいいのですが、そういうところを商工会と提携されて、わざわざ観光地へ行かなくても一つの観光地で東広島を体験していただくというのもいいのではないかなと思います。

<藏田市長>

ありがとうございます。テレビでよくやっているのを見たら、例えば、海外を映した場合、子供たちがサッカーをして遊んだり、水遊びをしたりしている姿をよく映すんですね。日本の風景を映した場合、子供たちが田んぼの中で野球をしたりとかですね、あんな風景がもう見れなくなりまして、なんとなく日本の良さがどこかに行ってしまったようだな、あんな素朴なところが外国から見たら、ものすごくイメージがいいこともあるんじゃないのかなと思うんですけど、それをやはり子供たちにとというのは、なかなか難しい時代になってきているのかもしれませんが、自分たちも何か集中して頑張っ、それを一般の人たちから見てすごいことだなあという感動は、私は、今は大学生なんかが一番ではないかと思うのですが、京極先生、そこらへんどうなんですかね、学生が頑張っているということは、ものすごく魅力もあったり、面白いところもあったり、見る方向も違ったり、いろいろな観光とか結び付けられるものがあったりすると思うのですが。

<京極委員>

学生と観光を結びつけるのは非常に難しいかなと思います。今の質問に対して、あまりアイデアがないのですが、基本的には学生たちはボランティアに携わってたりするのですが…。

今の質問とずれるかもしれませんが、渡部先生もおっしゃいましたが、まだ何となく点なんですよね。酒蔵通り、国分寺があった、龍王山があった、という感じがあるような気がします。スポーツとはちょっと結びつかないかもしれませんが、一昨年、フランスのランスという町に行きました。ランスというのは、シャンペン、その地域で作ったものしかシャンペンと呼べないのですね。そうすると、ツアーとかもあって、ブドウ棚を見に行くものがあるんです。すごく残念に思っているのは、酒蔵なんですけど、酒米ってこんなにできているんだよ、昔来た時に、ここの田んぼがすごく広くて、すごくきれいだったという印象があるんですよ。で、赤瓦の屋根があって、それが今どんどん消えているんですよ。それはもったいないと思うんですね。夏にはそういう田んぼ、きれいですよ。そこをウォーキングしましょうとか、秋には黄金色になっています。そういう自然をすごく今、東広島は壊しているような気がして、私は。だから、そこを見直して、先程、渡部先生がおっしゃったように、龍王山に行くウォーキングみたいなところから酒蔵に行くとかを作っておかないと、たぶんダメじゃないかという気が私は個人的にすごくしています。今、酒蔵通りがすごくきれいになっているので、今度はその中に含まれる、その中で食事をして泊ってみたいと海外の方はすごく感じる場所があるのではないかなと思うんですよね。なんかそういう日本を感じる、お酒ってここが中心だと思いますので、そういうことができるまちづくりを少し考えられると、いろいろなスポーツで来られた方もここに滞在されるのもあるのではないかなと思っております。そこに、いろいろと生徒たちも関わってきて、酒蔵通りでイベントをしたりというのもありかなと思います。

<藏田市長>

ありがとうございます。先程の日本を感じるという言葉ですよね。これは、一番外国の人が求めてきているんじゃないかと思うんです。学校にしても、スポーツにしても、いろんな面にしても、日本とは何か、なんて神秘的なところを感じるとか、あるいは海外で感じられ

ないものが日本にあるとかというものも随分あると思うんですけど、そこら辺の魅力を引っ張り出すことをいろいろ考えていただいて、その中で、スポーツと観光とを結びつけるいいアイデアがあればと思うんですが、長嶋委員どうでしょうか。

<長嶋委員>

今、教育委員の皆さんのお話をお聞きして、お米を刈った後の米俵とか、田んぼを使って、子供たちが体力づくりも兼ねるといのもいいのではないかなと思いました。酒蔵通り、酒造りというのは「大人」のイメージがあって、子供たちがその酒蔵通りで楽しめるというものは何かあるのでしょうか。

<藏田市長>

アイスクリームとかジェラートとかがあるんですかね。ちょっと少ないかもしれませんが。

<長嶋委員>

先程、教育長も言われたように、スポーツ大会が終わった後に、酒蔵通りに来た折には、大人だけではなく、子供たちにも興味を持ってもらえるようになれば、一緒に保護者の方もついていくことになると思うので、なにかそういう、お酒ができる過程がわかるブースであるとか、そういうものを使った子供たちが好きなお菓子がある場所もあればいいのではないかと思います。

それから、1月にある駅伝大会に2回、去年と今年と最後まで応援させていただいて、そこで思ったのは、最初応援していて、自分の知っている人が通ると、応援、がんばれといった感じでしたが、どんどん進んでいくとどの方も一所懸命走っている、だからみんなに声をかけたいという気持ちで、走っている人と同じような気持ちに最後にはなり、とてもいい気持ちで帰ったんですけど、どうしても走っている方たちの大会のような感じがしまして、そうではなくて、応援している方にもこう、優しい大会になればいいかなという風に感じました。例えば、応援ポイントはここがいいよといったマップがあれば、もっと応援する方も増えていくのではないかと、応援するだけでもスポーツというように考えてですね、そういうものを増やしていくと大きい大会になっても関心を持って、応援に来てくださるということに繋がっていくのではないかなと考えました。

<藏田市長>

いいですね、応援もスポーツという考え方というのは非常にいいことじゃないかと思えますね。全体が、みんながイベントとして、素晴らしい大会として盛り上げていく。いろいろとご意見をいただいたんですが、やはり原点はここにも書いてあるんですが、地域でのスポーツの構想が高まって、スポーツツーリズムと観光と地域の活性化というのが一番だろうと思うんです。坂越先生も、そこら辺ではいろいろなことを感じられたと思うんですが、如何でしょうか。

<坂越委員>

最初に渡部先生がおっしゃったとおり、こういう里山のようないい状況があって、滞在型でできる資源があるなあということで、以前、広島県の観光のデータを教えてもらったのですが、やはり広島県というのは滞在型が少ないらしいですね。平和公園に行って、宮島に行って、次はどこかというパターンが多いらしくて。その中で先程の、例えば、3日でも4日

でも1週間でも民家に泊まりながら、田植えの体験をしてみるとか、もっと言えば、そういうところで、例えば、渡部先生が出て行かれて、ウォーキングの教室とかをされたらとってもいいのではないかと思ったりしますが、そういう可能性は結構あるんじゃないかと思っております。

ただ、これはマイナスの発言になるのですが、スポーツと宿泊、観光…グリーンピアという悪い例があって、はっきり言えば、最初よかったのがだんだんと魅力がなくなってきて、赤字になって、さあ、どうしようかみたいな状況になってしまうと。ただ、たぶん箱モノじゃないんでしょうね。やっぱり、ちゃんとその環境、状況に、地に足をつけて受け入れ態勢を作るといことなんだろうかなあと思ったりします。

それと、どうしても発想が限られて、大学というふうになってしまうのですが、これだけ大学があって、東広島市の観光資源は大学もあるだろうというふうには思います。スポーツに限らなくなるのですが、例えば、東広島で学会をやるというと年間数十回はあるじゃないですか。学会が終わった後の懇親会を、酒蔵を使わせてもらおうと評判がよかったりするのがありますよね。そういう面での活用。それから、例えば、8月にオープンキャンパスがありますけど、延べで2万人ぐらい来るんですよ。当然、保護者もついてくるし、子供たちが大学キャンパスをうろうろしている間、保護者の人たちが、情報さえあればひょっとしてウチの子どもがここに住むかもしれないという意識を持って回るかもしれないですよ。大学のいろいろなイベント、具体的には、毎週金曜日にキャンパスツアーというものをやってまして、これは学生ボランティアが大学の中をずっと案内して回るんですけど、これも結構評判が良くて、毎週金曜日に何組か、5、6人のグループから10数人のグループで動いたりするんですけど、そういう大学の取組みと市の観光の取組みを情報共有して、こんなところもありますよとか、もし、息子さんやお嬢さんが大学に来るんでしたら、こんな学生たちの間で感動がありますよというのを見せるのもいいのかなあと思いつつながら、お話しを伺っていたところです。京極先生、近大の学生がどこか古民家を作って修復して活動したりされておりますよね。ああいうものをもっと盛んにすればいいんじゃないのかなと思います。

<藏田市長>

ありがとうございます。おっしゃられたように、学会の方々にももっともっと楽しんでいただいたり、PRできるようにならないと。先程おっしゃっていただいた、いつの間にか私たちが忘れていた赤瓦の家とか黄金色の風景とか、田植えした後の苗が大きくなって、あれは田んぼが多くCO<sub>2</sub>を吸収してくれているんです。だから、田舎の空気はきれいらしいんですよ。ああいったこともここでしか味わえない、あるいは酒米にしても、実は、酒米でおにぎりを作ったことはないとかいう訳なんですよ。酒米は酒米でお酒になるんだからということと言われるのですが、酒米のおにぎりもまた少し違うおにぎりができるらしいです。こんなことが、ちょっとしたことで見方を変えたら随分変わってくるのかなあと思いつつながら、皆様方からご意見をいただいた訳ではありますが、そうは言いながら、これだけは言いたいかもう少し話したいというのがございましたら、ご遠慮なしで言っていただきたいと思います。

<渡部委員>

先程いろいろと言わせていただいたのですが、よく考えてみると東広島市の宝というのは一つには自然があると思うんですよね。もう一つは大学、それから、もう一つ挙げるとお酒の文化、そういったものがそれぞれにあるんですけど、それを有効に活用することと、これからの観光は、体験型というんですかね。スポーツも体験型になるんですが、そういう中で、例えば先程、坂越さんがおっしゃられました近大の学生が中心となった豊栄にある古民家の活用プロジェクトとか、そういうところなんかは1つの拠点で、滞在型の健康づくりなんかでも発信できると思うんです。それから、もう一つこちらの地域では、ため池があちこちにあるんですけど、ああいうため池で釣堀りの文化をPRしたり、そういったものを整備したり、それから、自然の中で山歩きなんかもう一度見直しをして、整備をする。例えば、100万円か200万円ぐらいをかけるだけでも、だいぶいいものができるんじゃないかと思えます。それと、大学でも特に留学生とかね、近大も広大もそうですけど、あまり東広島市のことを知らないで卒業する人がほとんどです。もっと地域のほうに、スポーツなりなんかのイベントに来ていただいて、良さを実感していただいて、再びファミリーを連れて東広島市に来ると。その時は外国からのお客さんになる訳ですね。100人の内、2人でも3人でもそういうような体験をしていただいて、機会があればまた来ていただくというのが大事なことでないかなと思っていますところでもあります。

もう1つは、今、西条柿をもっと活用しようというプロジェクトが立ち上げられているんですけど、これもやはり、これから東広島をPRする一つの材料になるんじゃないかなと思っています。ですから、ため池でのフィッシング。フィッシングはスポーツですが、安芸津の海もありますし、そういった顔となる場所の活用をもっとPRするのが大事なことだと思っています。

<藏田市長>

ありがとうございます。先程のお話の中で、滞在型とか、体験型とかということ随分とおっしゃっていただきました。また、留学生の皆さん方もよく言われるのですが、学生街だけの生活で終わってほしくないところもございまして、本市をもっともっと見て歩いてほしい、あるいは知ってほしいというのがございますから、こういった方々にももっとPRあるいは出やすくしてあげるのも、ちょっと行政も頑張ってみようかなと思っていますので、そういったことが代々続いていくとか、我が国へのツイッターとかをしていただければ、素晴らしい宣伝になろうかと思っています。

本日はいろいろとありがとうございます。貴重なご意見をいただいたことに対して、これから共有した上で、様々な事業の推進をしていこうと思っています。教育大綱に掲げる基本理念の中に、未来を作るのは、やはり人づくりのまちである東広島である。その中から人口20万を目指し、人々から選ばれる都市を目標に掲げておりますので、これに向けて、少しでも関係者の理解を増やしていけるように頑張っていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○閉 会